

仙発総 第 166 号
平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

仙北市長 石 黒 直 次



今後の道路行政についての意見・提案について(回答)

平成20年9月19日付、国道企第37号で依頼のあった標記の件につきまして、
別添のとおり回答いたします。

①道路行政全般についての改善すべき点、要望や提案など

秋田県 仙北市

道路整備の必要性

道路整備の必要性について、都市部を中心に議論がなされ、道路はもうたくさんという道路整備不要論が出されている。

これらの議論は、今まで国の政策的投資を含めて首都圏大都市部に様々な投資が集中した結果、産業振興により労働人口の流入がおり、都市基盤整備の必要に迫られ、道路網や鉄道等の整備が大幅に促進され、なんら生活の利便性に支障をきさない方々を代弁した議論と言わざるをえない。

他方、地方においては、人口減少や経済効果のみ追求する論理で鉄道やバス路線が廃止され、道路整備は大幅に遅れ、交通の利便性が損なわれ、日々の生活に不便と不安を覚えながら暮らしているのが現状である。

このように首都圏大都市部と地方ではインフラ整備においても、日常生活における利便性でも大きな格差が生じている。これら格差を是正しつつ、均衡ある国土の形成、発展及び普遍的な社会資本整備は国家の大きな使命であると考えます。

高齢化が進み、気象条件が厳しい地域において道路は生命線であります。このため安心・安全に生活出来る最低限の道路整備は地方にとって必要不可欠であり、地域の実情をふまえた真に必要な道路整備をお願いするものであります。

道路整備に伴う採択基準の見直し

今までの道路整備に伴う採択基準は、通過交通量や費用対効果だけで全国一律である。これだと道路の整備が進んでいる地域は交通量が増えさらに整備が進み、整備が遅れている地域は交通量や人口の減少によりさらに道路整備が遅れる悪循環に陥る。このような尺度を変えない限り、道路整備の遅れている地域は道路整備の促進が望めない。

これは不平等であり、適当ではないと思われる。日本全国それぞれ地域に於いて特性があり、人口動態、土地の形態、気象条件、産業構造等様々に違いがある。これら諸条件を勘案して地域の実情にあった採択基準が必要と考えられる。

一例ではあるが、今、世界中で地球温暖化対策についての検討や議論がなされている。広大な山林資源や急峻な山塊を有する地域は地球温暖化の解消に大きな役割を担っている。水田や農地を耕作することにより、水田は保水力を高め自然のダム役割を果たしている。土地は耕作されることにより新鮮な空気を提供している。このように地方、特に農山村地域は自然環境の良好な改善に大きく貢献している。大都市部では考えられない大きなプラス面である。このような世界レベルの地球温暖化対策の面から考えると、交通量の減少や現段階規格の費用対効果など補ってあまりあるプラスポイントと考えられる。またそれぞれの地域には、地域特性と合わせて地域力があると思うので、これらをプラスポイントと捉えて、数値化して、加算できるシステムを構築の上、新たな道路整備に伴う採択基準を策定して地方において、真に必要な道路(住民が安心・安全に暮らせる)整備を促進できる方策を実現して頂きたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

秋田県 仙北市

現状と課題

仙北市は「観光産業を活かした北東北の交流拠点都市を目指して」を基本理念に掲げ、観光産業を農林業や商工業と並んだ大きな軸と捉え、それぞれの産業が連携を図り、活力あるまちづくりを推進すると共に住民が安全・安心して暮らせる生活環境の整備をまちづくりの指針としている。

「観光産業を活かしたまちづくり」を行政目標に、豊富な観光資源と恵まれた自然景観を活かした観光産業を育成し、1000万人の観光客（テンミリオン計画）が訪れるまちを目指している。

この施策を推進するためには道路の整備が重要不可欠であり、特に重要骨格路線である国道46号は、東北自動車道や秋田自動車道を結ぶ高速交通体系を担うとともに太平洋沿岸と日本海沿岸を結ぶ横軸交通ネットワーク路線としてその役割に期待するところが大きい。

しかしながら、大部分が寒冷豪雪地帯であり、気象条件の厳しい山岳地を通過する路線で、特に冬期間は、吹雪による視界不良や雪崩、路面凍結等による重大交通事故が発生して、たびたび通行不能が生じている。このことにより観光・物流等の経済活動が阻害されるとともに緊急医療や住民生活への不安等により地域の活性化が大きく損なわれている。

②-2 地域の目指すべき将来像

秋田県 仙北市

東北地方は山脈や高地が連なっており、これらを通る道路はトンネル部を除くと標高の高い狭隘部を横断している。このため四季を通じて様々に厳しい気象条件の中、災害に強い道路づくりが求められている。

特に国道46号は、岩手県と秋田県を結ぶ広域交通体系ネットワークの軸であり、物流・産業振興及び観光ルートとして地域の発展・活性化のために果たす役割は重要である。

このため災害等による交通遮断や通行不能は極力避けなければならない。これら「安心・安全の確保」のためには、地域高規格道路として整備が必要であると考え。併せて災害に強い地域高規格道路を主軸路線とし、国道・県道・市町村道及び高速自動車道が広域的交通ネットワークを形成し、整備することにより、次のような効果が考えられる。

- ① 高齢化社会にあっても緊急医療・災害救助や火災時の消火活動の時間短縮が図られるとともに防災面での救援・支援活動が容易になり、住民生活に安心を与えられる。
- ② 交通障害が大幅に減少することにより、定時的な物流輸送や通勤時間の短縮が図られ、雇用の確保、産業の育成・地域の活性化に大きく寄与する。
- ③ 横軸・縦軸の交通ネットワークが整備される事で新たな観光ルートの設定、美しい自然景観や豊富な温泉・歴史的建造物群等の豊富な観光資源を有機的に結びつけることにより、新たな観光客の招致が可能と考えられる。
- ④ 以上の他にも様々な相乗効果が考えられ、地域の活性化や新たなまちづくり事業が期待される。

以上、仙北市が抱えている地域の現状や課題及び目指すべき将来像について述べましたが、バス路線の廃止等、日々交通環境が悪化し、利便性が損なわれ、住民の生活に暗い影を投げかけている。高齢化社会の中で「道路」は生命線である。真に必要な道路整備を強く要望するものである。

③-1 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

秋田県 仙北市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
災害に強い安全・安心な幹線道路の確保	平成19年9月17日の豪雨により、市内の国道46号及び105号が5時間にわたり通行止めとなったが、迂回路がないため約9,500人が孤立した。この通行止めにより住民生活に支障を来し、また多くの物流運搬車両や観光客が足止めされた。秋田・岩手を結ぶ基幹道路国道46号が通行不能に陥る損失は非常に大きく、特に東北有数の観光地としてのイメージダウンが懸念された。	災害に強い安全・安心な幹線道路の確保をすることにより、高齢化社会が進行する中で、緊急医療対応や災害救助の迅速化等が図られ、安心・安全な住民生活が送れるとともに、東北有数の観光地としてのイメージアップが図られ観光客増につながる効果が期待できる。	